

公開講演会「大学教育の分野別質保証にむけて」において会場より寄せられた質問

(教養教育に関する質問を抜粋)

・教養教育をどのような組織構造のもとで誰が担当していくのかという問題についてはどのように議論されているのでしょうか？日本が一般教育を大学に導入して以来、専門学部の縦割り構造の中に(そして入学時に専門が決定している学生に対して)どのように一般教育を定着させるかということが最大の課題でした。大綱化はこの問題が解決できなかったことによってもたらされ、その後の教養教育の縮減は各学部が教養教育をやりたくないということの証左ではないでしょうか？内容も教育手法も重要ですが、日本の大学構造の中に定着させる方法に関しても見取り図を示していただけたらと思います。

・教養を誰が教えるのか…の項で、大学院での教養教育について腹案をお話下さい。

・教養教育が貧弱だと専門の学力も脆弱になることは現状に既に現れている。実利重視の教養課程崩壊に歯止めをかけるべきではないか？自主的に考える力をつける哲学を重視した教育は不可欠。古典に親しむことは基礎段階確率の点で不可欠。

・教養教育手法としての Teaching から Learning、本を読むこと、読み方を習うことといった基礎レベル(古典教養に近い)の欠落する学生達、積み上げ型学習が必要な教育事情(資格取得、基礎的理系科目や簿記など)で、必ずしも参加型、ワークショップ型等ふさわしくない分野・科目があるが、“話の聞けない学生”の教育をどうするか。参加型のみでは解決できないと考えるか。

・近年、学生の授業中の私語・遅刻等々、学生のマナーやモラルの問題があります。教養教育の一部にこういったマナー・モラル教育が分野として取り上げられるようになってくるのでしょうか？

・「教養」をめぐって考えをめぐらすだけでなく、現代社会、特に大学生と大学教育における教養の問題を整理分析し、専門教育との関係において大学教育・教養教育の在り方を検討していただきたいと思います。

・教養教育科目が各学部の中で作成されている現状の中で、専門教育と教養教育をいかに位置付けるべきですか。教養教育固有の意義が専門教育といかに関連づけられるのでしょうか。

・教養を授ける試みが成功したかどうかは短期間には判定しにくいし、outcome 指標での評価になじまない、という小林先生のお話は私もそうだと思います。しかし一方では、教員の業績評価（教育分野の）も毎年要求されているのが悩ましいところです。現在のところ、学生によるアンケートの評点や教員の自己申告による評価が主流のようですが、参照基準が教員評価の指標として取り入れられ、それによって大学の個性、教員の個性が失われていく方向に行かないのか、心配です。

・教育、特に教養教育の成果が定量的評価になじまないことは同感ですが、今日の事業仕分け等に見られる教育、科学技術の成果に対して見られる短期的というか短絡的な捉え方について、学術会議はどう働きかけていくのか、お考えをお聞きしたい。

・「Bに近い教養」→日本の全ての大学に適合しますか？

教育手法の改革に関する学術会議の提案→日本の全ての大学に適合しますか？

つまり、「大学」といっても、目指す教育目標、学生層、教員層は異なります。同一の参照枠組みで説明できますでしょうか、ということです。（旧帝大と新しく設置された大学、総合大学と単科大学、都市部と地方 etc.）

注)小林副委員長の当日の説明資料

A:古典・権威の復活へ

B:自立した強い個人としての市民育成

・研究の進展による知識量の急激な増大がある時代に教養教育をある程度最新のもので、かつ社会・企業が受け入れ可能なものとするためには、教員個人の力だけに頼らず、学会等の協力が必要ではないか。

・「教養」とは何か、共通教育、普遍教育はどうあるべきか、というのを限定するのはなかなか難しい問題ではありますが、本学では(私は)その一つの凡例としまして、「Identity を形成するための異分野理解」と位置付けてカリキュラムの構築を行っておりますが、どうお考えでしょうか。現在は、全学部学生対象の事件を含んだ「科学リテラシー」という授業を始めました。テーマは「光合成」。教養部科目「地域・環境・生命」です。

・古典重視、現代重視の議論は不毛なものとなりやすい。時間軸、空間軸を両方カバーする視点で作業を進めていくことを期待する。

・「自主的な行動／判断はどこで教育すべきか」教養教育に含まれるのでしょうか。

・教養とは端的に言うと、候補者はまともに政策を提案できること、選挙人がまともに候補者を評価・選択できる能力だと思うが、いかがですか。（逆に、小泉、石原人気は国民の教養性の象徴であり、麻生選出は自民党員の非教養性のあらわれであったと言いたい。これは答えにくいですが、質問の内容を補強するために）

・カルチャースクールとの相違がよく分からなくなりました。違いがあるとすれば「体系」でしょうが、その議論がありません。「教養」の言葉の持つ深遠さの中に逃げてしまっているのも気になります。やはり評価に基づく質の保証は必要ではないですか。